

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300428		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ大和町 ひまわり		
所在地	宮城県仙台市若林区大和町5丁目23-8		
自己評価作成日	令和 4年	12月	12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年	2月	7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄「卸町駅」近く、公共交通機関の利便性が良いグループホームです。法人理念でもある「感謝と創造」をしっかりと理解し入居者様に最適、最良のケアを提供しております。入居者様それぞれの特徴、個性を大事に寄り添い認知症状に合わせた声がけ、柔軟な対応を行い、これまでの生活を維持出来るよう職員一同努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄東石線「卸町駅」の東南部約700mにあるホームは、マンションや住宅等に囲まれた閑静な一角にある。徒歩10分ほどの駅周辺には、大型スーパーやコンビニ等があり、日常の利便性も良い。法人理念である「感謝と創造」に基づき、ユニット毎に「寄り添う介護」「自立支援」の目標を掲げている。毎月送付する請求書と一緒に、生活や心身等の近況を付した利用状況報告書と写真の同封があり、家族から感謝の声が寄せられている。中庭にある畑に、トマトやキュウリ、ナス等の苗を植え、入居者は手入れや収穫を楽しんでいる。入居者が受診する在宅診療医とは、24時間の電話連絡と緊急時対応先手配の体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ大和町)「ユニット名 ひまわり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各会議で会社の運営理念を共有。各ユニット理念は職員から意見を出し、シンプルで分かりやすい理念を作成した。	介助量の多少に関わらない「寄り添う介護」、今できる事を継続する「自立支援」のユニット目標を継続している。ユニット会議及びミーティングでの振り返りがある。ホーム独自の理念設定を検討されたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、施設行事等で地域との繋がりが、交流はあったがコロナ禍である影響から以前のような十分な交流が出来ていない。	敷地内の自販機を利用する隣接マンション管理人と挨拶等の交流があり、積雪時は除雪を手伝ってくれる。町内会に加入しており、連絡事項等の周知がある。地域やホーム行事等での交流は出来なかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で交流が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来は二カ月に一度の開催であるが、コロナ禍の影響で開催自体は出来ていない。しかし、事業所で独自に会議を開催の上で会議資料を送付し、頂戴した意見を反映しサービス向上に努めている。	2カ月毎に議題を載せた書面を、メンバーである町内会長や民生委員、地域包括職員に送付している。メンバーからの意見等の様式が無く、返信はない。家族への送付はされていない。	送付書面への議題主旨の説明記載、及び意見等提出様式の添付を検討されたい。前回の目標達成計画である家族への議事録送付を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新手続き、保護課の担当者との連携を密に行っている。	生活保護受給者の退去時に費用報告等の連携がある。11月にクラスターが発生し、抗原検査キットやエプロン等の対策用品等の支援を受けた。シルバーセンター主催のスキルアップ研修に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二カ月に一度身体拘束の勉強会を開催し意識、知識向上を図っている。必要以上に施錠はせず、センサー等を使用している。	防犯や外出願望者対策のドアセンサーと、起床時の転倒予防対策への人感センサー設置がある。勉強会はマニュアルの読み合わせに加え、穴埋めのテスト形式等で実施している。リーダーやケアマネ等参加の「身体拘束廃止委員会」を奇数月に開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時虐待防止研修を実施。初心者には面談後に虐待防止、リスクについて勉強会を実施した。また、必要時はミーティングや月一回のカンファレンスにて個別に話し合いを行っている。	「ちょっと待って」「座って」等の言葉が出た際は、管理者が注意喚起している。仕事や家庭での悩み等を聞く面談を年4回実施している。虐待発見時の警察や市への通報体制図がある。内部研修は年2回実施した。	

自己	外部	フリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人制度の勉強会の実現が出来なかった。実際に利用されている方もいらっしゃる為、今後概要、必要性、役割等を理解出来るような勉強会を実施していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、運営規定等のご説明を実施。不安や疑問点については事前に聴取、相互理解の上でサービス提供実施としている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。ご家族からの電話の際にご意見、要望等をお聞きし運営に活かしている。	毎月送付される封書で、切手代不足金の支払い処理請求があったとの意見に、投函前に計量を行うことにした。コロナ禍で面会を規制することもあり、スマホ等を活用したオンライン面会の要望があり、検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談の実施。また、月に一回のユニットミーティングがある為、その中で意見聴取、協議の上で運営に反映させている。	ユニフォームを揃えてはどうかの意見に、法人でエプロンを統一することにした。調理器具等の置き場を整理しようの意見に、ラックを配備し整理した。初任者研修や実務者研修は、法人一括で業務内に実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートがあり、それをもとに四半期に一度面談を実施。評価を伝え、やりがいに結びつくように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を開催。初任者研修、実務者研修等に取り組む職員も居り、業務時間内に講義へ出向けるようにシフト調整を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流は控えている。	月1回の法人エリア内会議に参加し、他ホーム等と意見交換がある。入居申し込み要望で空きがない際に、法人内の他ホームを確認し、紹介し合っている。クラスター発生後の予防徹底等を、法人全体で共有している。	

自己	外部	ラリ大和町	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人様に面会。実際に会話の機会を設け、要望や不安の聴取を実施。見学も出来る限り本人様が来訪出来るよう相談調整を行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族と面会。要望や不安の聴取を実施しアセスメントへ反映。介護記録に反映している。また相談内容を記録に残している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の申し込み段階で、担当居宅介護支援事業所、サービス利用事業所、医療機関から十分な情報提供を受け、その上で必要な支援を考慮した返答を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向に沿いながら支援を行っている。他入居者様の事や、職員の事などを細やかに傾聴し、それらについてカンファレンスにて話し合い、気分よく本人様が生活出来るよう配慮している。		
19			○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時にご家族へ連絡し、協力いただいている。家族に会いたいと申し出があった場合などもその旨お伝えし、面会の実施した。入居時の不安等は、ご家族様と対応について話し合いつつお気持ちに沿った支援を実施している。		
20	(10)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で外出、面会が出来ない期間があったがご家族様ご友人様との電話、手紙のやり取りの支援を行っている。	面会で訪れた家族等と一緒に写真を撮り、居室に貼って思い出すよう支援している。夫婦で入居している方に、二人で寛ぐ時間を支援している。2～3か月毎に来る馴染みの理・美容師との交流を楽しみにしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者様の関係状況を把握。ミーティングにて話し合っている。共有スペースの席等は、本人様の希望や状況を配慮して関係性が良好なものとなるようアドバイスを行っている。		

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになり、退去後もご連絡を行い会話をする機会を設け、ご様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言や表情を細やかに観察し、また申し送りにて対応を検討する等の配慮を実施。食事が進まない方はお菓子を提供したり、水分も嗜好にそったものを提供する等の工夫を実施。	入居時に得た本人や家族の意向等を共有し、息子の名前を出す方や諺に詳しい方等が口にする言葉に応じて話し相手になっている。入居者が描いたぬり絵を家族に見せたいとの要望に、手紙を送る支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報提供を受け、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での出来事や発言、様子について細やかに観察、記録し、申し送りにて伝達している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務日誌、介護記録を情報共有し、毎月のカンファレンス、ユニット会議にて話し合いを行い、最適なケアに繋げている。	カンファレンスを基にモニタリングを実施し、3か月や6か月でのプラン見直しがある。コロナ禍で、見直し後の説明は電話で行い、郵送で確認を得ている。毎月の利用状況に、ケアプラン達成度の報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を有し、その中から情報を抽出している。月一回のカンファレンスの中で個々の課題について話し合う機会があり、その課題について評価し介護計画書の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化には至っていないが、集える場所の提供等、今後ニーズが発生した場合は柔軟に対応していきたい。		

自己	外部	ラリ大和町	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近隣障害就労支援事業所より施設来訪いただき、掃除などを実施いただいていたが現在はコロナ禍の影響で行えていない。		
30	(13)		○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初期段階でかかりつけ医に相談を行い、利点などを説明させていただき決定。また、医師とご家族様契約の際にも同席。相互理解の上で円滑な支援となるよう配慮している。	全員が月2回の訪問診療を受診している。かかりつけ医に通院する2名に、職員の代理受診等の支援がある。月2回の歯科訪問診療があり、治療や全員の口腔ケアがある。	
31			○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置されている。必要時に相談を行い、適切な対処が来ている。		
32			○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が必要な方がいらっしゃる場合、ご家族様に任せるのではなく事業所職員が向向き、情報交換や相談を実施。病院内でのカンファレンスにも出席している。		
33	(14)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について看護職員、医療機関より終末期についての検討の必要性助言があった場合、充分にご家族様と話し合いを実施している。	重度化対応等の看護職員配置があり、入居時に重度化対応に関する考え方の説明がある。昨年11月に看取り支援を行い、家族から感謝された。内部研修を年2回実施している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応などを記載したマニュアル等の掲示がある。応急手当や初期対応の実践的な訓練については今後、実施していく。		
35	(15)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の火災避難訓練、夜間の避難訓練を実施。また、消防設備会社の立会いの下での訓練を実施し、通報、消火器の使用方法の確認を行った。	同一計画での夜間(早朝)火災発生想定訓練を2回実施した。訓練への地域住民の参加、及び訓練記録はない。2階入居者の非常階段からの避難訓練、及び近隣マンション管理組合等との協力を検討されたい。	多様な場所からの災害発生を想定した訓練実施と、隣接マンション等との参加協力体制構築を期待する。

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 2023/5/18	
		次	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36 (16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを害さないよう、気持ちに沿った声かけを実践。また、統一が必要な場合はカンファレンスにて話し合い、混乱しない配慮をしている。	トイレや失敗時の声掛けは、小声で「歩いてみましょう」等で誘導している。入室する際はノックと声掛けを励行し、ホールに居る時は「洗濯物を部屋に置きます」等で了解を得ている。呼称は「さん」付けである。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援を行う際に本人様の意向を伺う習慣が出来ている。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月一回のカンファレンスやミーティングなどでその方の表情、言動、希望等について話し合いの機会があり、個々に合わせた支援を行うよう配慮している。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前、起床時のお肌のお手入れなどの助言や介助を実施。	
40 (17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事形態を考慮し、提供している。食事は職員と一緒にテーブルで召し上がる機会があり、談話をしつつ和やかな時間となるよう配慮している。	栄養価計算された配食業者の献立で、食材を職員が調理し、提供している。おやつに、ピザやハンバーグ等の希望を取り入れている。誕生日は職員が手作りケーキを準備し、一緒に飾り付けをして皆で祝っている。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材に関して、外注にて栄養士が作成した献立に準じて食事提供。水分摂取に関し、摂取量をみてのすすめや器の工夫、好まれる状態での提供としている。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのお声かけを実施、必要時は介助としている。また、希望や必要性がある場合、訪問歯科の利用も実施。	

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合ったパットの使用等を検討、使用いただく。夜間に種類の変更を行い睡眠を妨げない工夫も実施。	そわそわして立ち上がる等のサインやパターン把握による誘導で、トイレ排泄の支援がある。夜間はトイレ排泄の見守りと、ポータブル使用の方への支援がある。100歳に近い方が、おむつからリハパンに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヤクルトを提供し水分補給、日々の運動にて自然排便が出来るよう心がけている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	お断りの際は、翌日にお声かけする等の配慮をしている。	入浴は週2回ほどの支援がある。拒否する方に、「席を移りましょう」等で誘導している。2人で介助する車椅子使用の方は、浴槽に入ってリンゴの唄等を口ずさんでいる。冬至には柚子湯等で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ほとんどの方が午睡の時間があり、休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋についてのファイルが日常的に見られるようフロアに設置。変更時は確認を各々実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝い等、その方が得意とするものを依頼したり、うまく出来ない方等には模擬の食器を準備する等の配慮を行っている。定期的な行事で、楽しみが生まれるように企画を実行している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で、外出は控えているが庭の散歩、花壇への水やり等は行っている。	花見等を検討したが実施できず、ホーム敷地内や周辺の散歩等を支援している。ハンドクリームやティッシュ等の日用品購入希望に、職員が代行購入で支援している。年間外出計画の作成を検討されたい。	

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施せず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を所持される方が居り、必要時にトラブルにならないよう支援していた。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や参加した行事の写真をまとめたものを掲示している。また、必要時に調光出来る照明設備を備えている。	ホール壁面は黄緑色のクロスで囲まれ、濃い緑の葉のリース等の飾り付けがある。敬老会やクリスマス、節分等、楽しかった行事のスナップ写真が貼られている。2階ホール壁面には、以前から交流のある中学校吹奏楽部生徒の寄せ書きを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース等は、本人のご希望や状況を考慮の上で関係性が良好になるようアドバイスを実施。また、テレビの配置換え等を実施し居心地の良い空間となるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様持ち込みの家具や仏壇がある。また、行事やメッセージカード、ご家族様の写真掲示を行い不安感の軽減を図っている。	居室入り口には名前の表示があり、写真を張っている方もいる。自宅で使っていたタンスや衣装ケース等を置いている。居室で好きな塗り絵や点繋ぎをしたり、チラシや新聞紙でゴミ箱等を折って過ごす方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、各居室ドアには表札、顔写真、トイレやお風呂には分かりやすいような表示をし、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300428		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ大和町 コスモス		
所在地	宮城県仙台市若林区大和町5丁目23-8		
自己評価作成日	令和 4年	12月	12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年	2月	7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄「卸町駅」近く、公共交通機関の利便性が良いグループホームです。法人理念でもある「感謝と創造」をしっかりと理解し入居者様に最適、最良のケアを提供しております。入居者様それぞれの特徴、個性を大事に寄り添い認知症状に合わせた声がけ、柔軟な対応を行い、これまでの生活を維持出来るよう職員一同努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄東線「卸町駅」の東南部約700mにあるホームは、マンションや住宅等に囲まれた閑静な一角にある。徒歩10分ほどの駅周辺には、大型スーパーやコンビニ等があり、日常の利便性も良い。法人理念である「感謝と創造」に基づき、ユニット毎に「寄り添う介護」「自立支援」の目標を掲げている。毎月送付する請求書と一緒に、生活や心身等の近況を付した利用状況報告書と写真の同封があり、家族から感謝の声が寄せられている。中庭にある畑に、トマトやキュウリ、ナス等の苗を植え、入居者は手入れや収穫を楽しんでいる。入居者が受診する在宅診療医とは、24時間の電話連絡と緊急時対応先手配の体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ大和町)「ユニット名 コスモス 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、全体会議で会社の運営理念を共有。各ユニット理念は職員から意見を出し、シンプルで分かりやすい理念を作成した。	介助量の多少に関わらない「寄り添う介護」、今できる事を継続する「自立支援」のユニット目標を継続している。ユニット会議及びミーティングでの振り返りがある。ホーム独自の理念設定を検討されたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議、施設行事等で地域との繋がりが、交流はあったがコロナ禍である影響から以前のような充分な交流が出来ていない。	敷地内の自販機を利用する隣接マンション管理人と挨拶等の交流があり、積雪時は除雪を手伝ってくれる。町内会に加入しており、連絡事項等の周知がある。地域やホーム行事等での交流は出来なかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で交流が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来は二カ月に一度の開催であるが、コロナ禍の影響で開催自体は出来ていない。しかし、事業所で独自に会議を開催の上で会議資料を送付し、頂戴した意見を反映しサービス向上に努めている。	2カ月毎に議題を載せた書面を、メンバーである町内会長や民生委員、地域包括職員に送付している。メンバーからの意見等の様式が無く、返信はない。家族への送付はされていない。	送付書面への議題主旨の説明記載、及び意見等提出様式の添付を検討されたい。前回の目標達成計画である家族への議事録送付を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新手続き、保護課の担当者との連携を密に行っている。	生活保護受給者の退去時に費用報告等の連携がある。11月にクラスターが発生し、抗原検査キットやエプロン等の対策用品等の支援を受けた。シルバーセンター主催のスキルアップ研修に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二カ月に一度身体拘束の勉強会を開催し意識、知識向上を図っている。必要以上に施錠はせず、センサー等を使用している。	防犯や外出願望者対策のドアセンサーと、起床時の転倒予防対策への人感センサー設置がある。勉強会はマニュアルの読み合わせに加え、穴埋めのテスト形式等で実施している。リーダーやケアマネ等参加の「身体拘束廃止委員会」を奇数月に開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時虐待防止研修を実施。初心者には面談後に虐待防止、リスクについて勉強会を実施した。また、必要時はミーティングや月一回のカンファレンスにて個別に話し合いを行っている。	「ちょっと待って」「座って」等の言葉が出た際は、管理者が注意喚起している。仕事や家庭での悩み等を聞く面談を年4回実施している。虐待発見時の警察や市への通報体制図がある。内部研修は年2回実施した。	

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人制度の勉強会の実現が出来なかった。実際に利用されている方もいらっしゃる為、今後概要、必要性、役割等を理解出来るような勉強会を実施していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、運営規定等のご説明を実施。不安や疑問点については事前に聴取、相互理解の上でサービス提供実施としている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。ご家族からの電話の際にご意見、要望等をお聞きし運営に活かしている。	毎月送付される封書で、切手代不足金の支払い処理請求があったとの意見に、投函前に計量を行うことにした。コロナ禍で面会を規制することもあり、スマホ等を活用したオンライン面会の要望があり、検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談の実施。また、月に一回のユニットミーティングがある為、その中で意見聴取、協議の上で運営に反映させている。	ユニフォームを揃えてはどうかの意見に、法人でエプロンを統一することにした。調理器具等の置き場を整理しようの意見に、ラックを配備し整理した。初任者研修や実務者研修は、法人一括で業務内に実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートがあり、それをもとに四半期に一度面談を実施。評価を伝え、やりがいに結びつくように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を開催。初任者研修、実務者研修等に取り組む職員も居り、業務時間内に講義へ出向けるようにシフト調整を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流は控えている。	月1回の法人エリア内会議に参加し、他ホーム等と意見交換がある。入居申し込み要望で空きがない際に、法人内の他ホームを確認し、紹介し合っている。クラスター発生後の予防徹底等を、法人全体で共有している。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 2023/5/18	
		次	次
<p>自己部 外 大和町 項目</p> <p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人様に面会。実際に会話の機会を設け、要望や不安の聴取を実施。見学も出来る限り本人様が来訪出来るよう相談調整を行っている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族と面会。要望や不安の聴取を実施しアセスメントへ反映。介護記録に反映している。また相談内容を記録に残している。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の申し込み段階で、担当居宅介護支援事業所、サービス利用事業所、医療機関から十分な情報提供を受け、その上で必要な支援を考慮した返答を行っている。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向に沿いながら支援を行っている。他入居者様の事や、職員の事などを細やかに傾聴し、それらについてカンファレンスにて話し合い、気分よく本人様が生活出来るよう配慮している。	
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時にご家族へ連絡し、協力いただいている。家族に会いたいと申し出があった場合などもその旨お伝えし、面会の実施した。入居時の不安等は、ご家族様と対応について話し合いつつお気持ちに沿った支援を実施している。	
20	(10) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で外出、面会が出来ない期間があったがご家族様ご友人様との電話、手紙のやり取りの支援を行っている。	面会で訪れた家族等と一緒に写真を撮り、居室に貼って思い出すよう支援している。夫婦で入居している方に、二人で寛ぐ時間を支援している。2～3か月毎に来る馴染みの理・美容師との交流を楽しみにしている。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者様の関係状況を把握。ミーティングにて話し合っている。共有スペースの席等は、本人様の希望や状況を配慮して関係性が良好なものとなるようアドバイスを行っている。	

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになり、退去後もご連絡を行い会話をする機会を設け、ご様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言や表情を細やかに観察し、また申し送りにて対応を検討する等の配慮を実施。食事が進まない方はお菓子を提供したり、水分も嗜好にそったものを提供する等の工夫を実施。	入居時に得た本人や家族の意向等を共有し、息子の名前を出す方や諺に詳しい方等が口にする言葉に応じて話し相手になっている。入居者が描いたぬり絵を家族に見せたいとの要望に、手紙を送る支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に情報提供を受け、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での出来事や発言、様子について細やかに観察、記録し、申し送りにて伝達している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務日誌、介護記録を情報共有し、毎月のカンファレンス、ユニット会議にて話し合いを行い、最適なケアに繋げている。	カンファレンスを基にモニタリングを実施し、3か月や6か月でのプラン見直しがある。コロナ禍で、見直し後の説明は電話で行い、郵送で確認を得ている。毎月の利用状況に、ケアプラン達成度の報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を有し、その中から情報を抽出している。月一回のカンファレンスの中で個々の課題について話し合う機会があり、その課題について評価し介護計画書の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化には至っていないが、集える場所の提供等、今後ニーズが発生した場合は柔軟に対応していきたい。		

自己	外部	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近隣障害就労支援事業所より施設来訪いただき、掃除などを実施いただいていたが現在はコロナ禍の影響で行えていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初期段階でかかりつけ医に相談を行い、利点などを説明させていただき決定。また、医師とご家族様契約の際にも同席。相互理解の上で円滑な支援となるよう配慮している。	全員が月2回の訪問診療を受診している。かかりつけ医に通院する2名に、職員の代理受診等の支援がある。月2回の歯科訪問診療があり、治療や全員の口腔ケアがある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置されている。必要時に相談を行い、適切な対処が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が必要な方がいらっしゃる場合、ご家族様に任せるのではなく事業所職員が向向き、情報交換や相談を実施。病院内でのカンファレンスにも出席している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について看護職員、医療機関より終末期についての検討の必要性助言があった場合、充分にご家族様と話し合いを実施している。	重度化対応等の看護職員配置があり、入居時に重度化対応に関する考え方の説明がある。昨年11月に看取り支援を行い、家族から感謝された。内部研修を年2回実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応などを記載したマニュアル等の掲示がある。応急手当や初期対応の実践的な訓練については今後、実施していく。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の火災避難訓練、夜間の避難訓練を実施。また、消防設備会社の立会いの下での訓練を実施し、通報、消火器の使用方法の確認を行った。	同一計画での夜間(早朝)火災発生想定訓練を2回実施した。訓練への地域住民の参加、及び訓練記録はない。2階入居者の非常階段からの避難訓練、及び近隣マンション管理組合等との協力を検討されたい。	多様な場所からの災害発生を想定した訓練実施と、隣接マンション等との参加協力体制構築を期待する。

自己評価	外部評価	ラリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを害さないよう、気持ちに沿った声かけを実践。また、統一が必要な場合はカンファレンスにて話し合い、混乱しない配慮をしている。	トイレや失敗時の声掛けは、小声で「歩いてみましょう」等で誘導している。入室する際はノックと声掛けを励行し、ホールに居る時は「洗濯物を部屋に置きます」等で了解を得ている。呼称は「さん」付けである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援を行う際に本人様の意向を伺う習慣が出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月一回のカンファレンスやミーティングなどでその方の表情、言動、希望等について話し合いの機会があり、個々に合わせた支援を行うよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝前、起床時のお肌のお手入れなどの助言や介助を実施。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事形態を考慮し、提供している。食事は職員と一緒にテーブルで召し上がる機会があり、談話をしつつ和やかな時間となるよう配慮している。	栄養価計算された配食業者の献立で、食材を職員が調理し、提供している。おやつに、ピザやハンバーグ等の希望を取り入れている。誕生日は職員が手作りケーキを準備し、一緒に飾り付けをして皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材に関して、外注にて栄養士が作成した献立に準じて食事提供。水分摂取に関し、摂取量をみてのすすめや器の工夫、好まれる状態での提供としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのお声かけを実施、必要時は介助としている。また、希望や必要性がある場合、訪問歯科の利用も実施。		

自己評価	外部評価	フリ大和町 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態に合ったパットの使用等を検討、使用いただく。夜間に種類の変更を行い睡眠を妨げない工夫も実施。	そわそわして立ち上がる等のサインやパターン把握による誘導で、トイレ排泄の支援がある。夜間はトイレ排泄の見守りと、ポータブル使用の方への支援がある。100歳に近い方が、おむつからリハパンに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヤクルトを提供し水分補給、日々の運動にて自然排便が出来るよう心がけている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	お断りの際は、翌日にお声かけする等の配慮をしている。	入浴は週2回ほどの支援がある。拒否する方に、「席を移りましょう」等で誘導している。2人で介助する車椅子使用の方は、浴槽に入ってリンゴの唄等を口ずさんでいる。冬至には柚子湯等で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ほとんどの方が午睡の時間があり、休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋についてのファイルが日常的に見られるようフロアに設置。変更時は確認を各々実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝い等、その方が得意とするものを依頼したり、うまく出来ない方等には模擬の食器を準備する等の配慮を行っている。定期的な行事で、楽しみが生まれるように企画を実行している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の影響で、外出は控えているが庭の散歩、花壇への水やり等は行っている。	花見等を検討したが実施できず、ホーム敷地内や周辺の散歩等を支援している。ハンドクリームやティッシュ等の日用品購入希望に、職員が代行購入で支援している。年間外出計画の作成を検討されたい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	2023/5/18 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施せず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を所持される方が居り、必要時にトラブルにならないよう支援していた。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や参加した行事の写真をまとめたものを掲示している。また、必要時に調光出来る照明設備を備えている。	ホール壁面は黄緑色のクロスで囲まれ、濃い緑の葉のリース等の飾り付けがある。敬老会やクリスマス、節分等、楽しかった行事のスナップ写真が貼られている。2階ホール壁面には、以前から交流のある中学校吹奏楽部生徒の寄せ書きを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース等は、本人のご希望や状況を考慮の上で関係性が良好になるようアドバイスを実施。また、テレビの配置換え等を実施し居心地の良い空間となるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様持ち込みの家具や仏壇がある。また、行事やメッセージカード、ご家族様の写真掲示を行い不安感の軽減を図っている。	居室入り口には名前の表示があり、写真を張っている方もいる。自宅で使っていたダンスや衣装ケース等を置いている。居室で好きな塗り絵や点繋ぎをしたり、チラシや新聞紙でゴミ箱等を折って過ごす方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、各居室ドアには表札、顔写真、トイレやお風呂には分かりやすいような表示をし、工夫している。		